

「ユニバーサルデザイナー—人とその環境の近未来—」

東陶機器株式会社 ユニバーサルデザイン研究所 所長 竜口隆三氏

1970年代、我々は身体障害者設備器具の研究を始めた。具体的には車椅子用のトイレである。1990年代に高齢者の研究を始めた。具体的には立ち上がりやすい便座、そのまま洗える椅子などである。この2つは何れも“バリアフリー”の考え方に基づく。バリアフリーは身体障害者がその身体状況下では出来ない動作を支援する為のものである。

ユニバーサルデザインとは、万人の為のデザインで、たとえば低床バス(ノンステップバス)などが当てはまる。膝の弱い人も、重い荷物を持っている人にも優しい万人の為のデザインだからである。バリアフリーとユニバーサルデザイン（UD）はコンセプトが異なるということを認識していただきたい。言い換えればバリアフリーは問題解決、ユニバーサルデザインは創造的発想に基づくのである。

- 年齢にかかわらず、一人でも多くの人に使いやすい空間やデザインを目指して、モノづくりを進める。
- より使いやすく、より生活が楽しくなるような発想で、ユニバーサルデザイン度の向上を進める。

以上が基本理念である。この基本理念に基づいて製品をつくるに当たり、我々が取り組む製品の背景は、「毎日必ず使うもの」「みんなが必ず使うもの」である。トイレや浴室は殆ど毎日みんなが使う。このためみんなが使わないキッチンの開発がやや遅れてしまったというマイナスもあった。

今まで追及してきた毎日毎日の使いやすさの視点を原則にまとめて明文化した。この「5つのUD原則」とは、①姿勢・動作が楽、②分かりやすく簡単な操作、③使用者の違い・変化に対応、④快適、⑤安全である、の5つである。

この原則に基づいて約300名のUDモニターによるシミュレーションを行う。300名は、幼児、高齢者、障害者などからなっている。ここから創造的発想という視点でモノづくりの企画・開発に活かし標準化を進める。空港、駅、個人宅、車椅子用トイレのいずれの場合も手摺、紙巻器、ボタンなどの設置してある壁面の位置と順序を全く同じにした。

ユニバーサルデザインのポイントは①ユーザー視点で必ず評価すること②ユーザーの普段の行動を良く見ること③事後検証を必ず実施することである。更に高齢者配慮の5原則を付け加えると①床の段差をなくす②手摺をつける③座る姿勢への配慮④開閉しやすい建具⑤浴室・脱衣室の暖房と安全な入浴方法である。

TOTOの商品は「毎日必ず使うもの」「みんなが必ず使うもの」であるだけに、傷害配慮を含め「みんなに使いやすい」を30年以上にわたって考え続けてきた。年齢も違えば体格も違う、あらゆる人生のあらゆる状況において、不便や不快を与えず、楽で安全で、快適な商品・空間をお届けしたいと考えている。

標準化は誰でもが気にせずに使いこなすことが出来るためのものである。個人の家庭内の設備は毎日使い慣れているが、いったん外出し、外出先で困るのは公共トイレの使い勝手である。まず全盲の人は、男性用と女性用が左右どちらに分かれているかが分からない。そこでTOTOは東洋大学と組んで「公共トイレ標準化共同研究会」を設立した。公共性の高い公共トイレでは、いつ誰が使っても設備の位置や操作方法が同じでなければならないからである。次の段階では、もう「ユニバーサルデザイン」を超えていくことになるのだろう。